

地方推進本部・地方農業圏連携強化推進協議会・農林業団体・農業事業者等の活動状況

## 第44回福島県農業賞

### ～田島町・湯田さん夫妻が受賞～

第44回福島県農業賞の表彰式が、6月24日に福島市の福島県庁で行われました。今回南会津地方からは、田島町の湯田浩仁さん、江美さん夫妻が晴れの「農業十傑」に輝き、表彰を受けました。

湯田さん夫妻は、田島町田部地区でアスパラガスと花き(トルコギキョウなど)の栽培に取り組んでおり、徹底した土作りで地力を高めるとともに、新しい栽培技術を積極的に取り入れています。また、環境にやさしい農業や家族内の経営管理に

についても熱心に取り組む、南会津地方で第一号のエコファーマーになったほか、今年はこれまで行ってきた作業や給与などに関する家族内の取り決めを明確にするため、家族経営協定を締結しました。

自らの農業以外でも、他地域への技術の普及に貢献したほか、自分の農業への取り組みや意気込みを若い後継者に語ったり、土づくりや環境に優しい農業への取り組みについての講演も行っており、これらの取り組みが高く評価されて、今回の受賞となりました。

表彰式では表彰状や記念品の授与、記念撮影などが行われ、式終了後には、県庁の関係各領域、南会津農林事務所などを訪ね、「今回の受賞を励みに、これからも頑張りたい」と受賞報告を行いました。今後の更なる活躍が期待されます。

(地域農林企画室)



## 「森と水の学習会・イワナの放流」開催される



子供たちに、「森林・川・海の循環の理念」の中で森林が果たす役割を理解してもらうために「森林と水の学習会、イワナの放流」が6月25日に只見町布沢地区の「恵みの森」で開催されました。

これは、毎年南会津森林土木協会と建設業協会山口支部青年部の主催で行われているもので、今年は、只見町立明和小学校の3・4年生25名を対象として実施されました。

今回は只見町黒谷地区にある「イワナの里」の木津さんを講師に招き、放流の前にイワナについての勉強をし、生徒達からはイワナは何を食べているかなどの質問が出されました。そして生徒達の手により、森に育まれたきれいな水に棲息するイワナとヤマメの稚魚3,000匹を一斉に放流しました。

当日はこの後雨が降り出したため、「森林の分校ふざわ」に移動し、周辺に生育している木々の種類や「森の働き」についての学習会を行いました。なかでも、「森林」と「畑」から採取した土を入れた2つの器具を使った実験では、皆興味深く観察していました。

「畑の土」の上に水を流すと、地下に浸透する水は少なく、ほとんどが地表面を流れてしまいました。一方、「森林の土」は、水をスポンジのように吸収して地下に浸透し、「畑の土」との保水力の違いがよくわかりました。また、濁った水を「森の土」に流し、濾過される様子の観察も行い、森林の働きや大切さなどについて理解が深められました。

(森林林業部)



## **ご存じですか？「南会津葡萄 シャルドネ」**

昭和40年代後半、開発パイロット事業により、田島町・下郷町を中心に醸造用ブドウが植栽されました。しかし、気象災害が続き、ねむり病が発生し、大多数の農家が醸造用ブドウ栽培をあきらめました。が、現在も南会津ではマンズワイン(株)との契約栽培を続けている農家が4戸あり、醸造用ブドウ振興協議会を組織しています。

協議会の会長を務める湯田八代治・ヒロノさんご夫妻は、生涯現役の気持ちで栽培に取り組んでいます。昨年までは、八代治さんが森林組合の常勤組合長や町会議員などを勤めていたため、約1.2haのブドウ園はヒロノさんが中心となり管理してきました。ヒロノさんは「最高のブドウ生産をしたい一心で、大災害に遭遇したブドウを助けてきました。今年からは夫と二人で取り組めるので、楽しいです。」とおっしゃっていました。

南会津の醸造用ブドウ栽培は、このように意欲的に取り組む栽培者によって守られてきました。昨年度からは、ラベルに協議会のメンバーが掲載された「南会津葡萄 シャルドネ」も販売されています。今年はブドウの房も良く、秋には高品質ブドウの収穫が期待できます。

(農業普及部)



この情報は南会津農林事務所のホームページでもご覧になれます。

(ホームページアドレス) <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/n-news/top.htm>